

イ 生徒の評価

各教科の授業を通して、自己評価を基本に評価活動を進めている。レディネステスト、ポストテストをはじめ、自己評価カード等を利用して、学習に対する意欲を高めている。

また、学校を伺った際もTTの授業を通して、個に応じた対応を行いながら、生徒の意欲を喚起させていた。まさにTTの在り方に示唆を与えてくれるような授業が常日頃から実践されている。

ウ 授業の実際

基礎基本の定着を図るために、授業の展開においてもその指導法に工夫を図っている。例えば、数学の授業では、コース別学習を設定し、それぞれのコースの目標を確認しながら、生徒一人一人が課題を追究している。そして、授業の終わりに自己評価を通して、分かったことやできるようになったこと、今後の授業に生かしたりすることをまとめさせている。授業後の生徒の感想を聞いてみると、学級の八割以上が「今日の

授業に楽しく興味をもって取り組めた。」という感想であった。

※ 自己評価カード

自己紹介をしよう。

1 この時間の学習について、楽しく興味をもって取り組めましたか。

[1 2 3 4 5]

← (取り組めなかった)

(取り組めた) →

2 この授業で、分かったことやできるようになったことを具体的に書きなさい。

()

3 これまでの自分の学習を振り返って、何か感じるがあれば書きなさい。

()

4 今後の学習で心がけたいことを書きなさい。

()

2 訪問を通して

「他人と過去は変えられない」だから自分を変えることが大切である。今回取材した日吉中学校では生徒の変容をみるために、まず、学校が変わる、つまり教師が変わろうとしている。いつでも、だれからでも、どの教科でも授業参観を行っている。教師同士が互いを認め合い、助け合うような関係のもと、自らの指導法を率直に評価し合っているのである。そこから、個に応じた指導の在り方を探りながら、授業改善を行っている。さらにレディネステスト、ポストテスト等の評価と生徒自身による自己評価を使い、生徒一人一人に学習への目標をもたせて、授業を展開している。

評価の在り方を探りながら、生徒に基礎学力の定着を図っている日々の実践の積み重ねが、大きな成果として実を結んでいくはずである。